Wireless LAN AP-11mini

取扱説明書

http://www.corega.co.jp/

PN J613-M7085-00 Rev.A 010716

安全のために

必ずお守りください

警告 下記の注意事項を守らないと**火災・感電**により、**死亡や大けが**の原因となります。

分解や改造をしない

本製品は、取扱説明書に記載のない分解や改造はしないでください。
火災や感電、けがの原因となります。

雷のときはケーブル類・機器類にさわらない

感電の原因となります。

異物は入れない　水は禁物

火災や感電の恐れがあります。水や異物を入れないように注意してください。万一水や異物が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。(当社のサポートセンターまたは販売店にご連絡ください。)

通風口はふさがない

内部に熱がこもり、火災の原因となります。

湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気のあたる場所には置かない

内部回路のショートの原因になり、火災や感電の恐れがあります。

表示以外の電圧では使用しない

火災や感電の原因となります。
本製品に付属の電源アダプターは100V で動作します。

付属の電源アダプター以外で使用しない

火災や感電の原因となります。
必ず、付属の電源アダプターを使用してください。

コンセントや配線器具の定格を超える使い方はしない

たこ足配線などで定格を超えると発熱による火災の原因となります。

AC アダプターのコードを傷つけない

火災や感電の原因となります。

設置・移動のときは電源プラグを抜く

感電の原因となります。

ご使用にあたってのお願い

次のような場所での使用や保管はしないでください。

・直射日光の当たる場所
・暖房器具の近くなどの高温になる場所
・急激な湿度変化のある場所（結露するような場所）
・湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所（湿度 80%以下の環境でご使用ください）
・振動の激しい場所
・ほこりの多い場所や、ジュータンを敷いた場所（静電気障害の原因になります）
・腐食性ガスの発生する場所

静電気注意

本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、コネクターの接点部分、ポート、部品などに素手で触れないでください。

取り扱いはていねいに

落としたり、ぶつけたり、強いショックを与えないでください。

お手入れについて

清掃するときは電源を切った状態で

誤動作の原因になります。

機器は、乾いた柔らかい布で拭く

汚れがひどい場合は、柔らかい布に薄めた台所用洗剤（中性）をしみこませ、堅く絞ったものでふき、乾いた柔らかい布で仕上げてください。

ぬらすな　中性洗剤使用　堅く絞る

お手入れには次のものは使わないでください

・石油・みがき粉・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん
（化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書に従ってください。）

シンナー類不可

はじめに

この度は「corega Wireless LAN AP-11mini」無線 LAN 用アクセスポイントをお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。

本マニュアルは本製品を正しくご利用いただくための手引きです。
必要なときにいつでもご覧いただくために、保証書とともに大切に保管くださいますようお願いいたします。

本製品の最新情報

本製品に関する最新情報(ファームウェアのバージョンアップ情報など)は、コレガのホームページでお知らせします。

無線 LAN に関する情報や活用例などもご紹介しておりますので、是非、コレガのホームページをご覧ください。

corega のホームページ http://www.corega.co.jp/

電波に関する注意

本製品を下記のような状況でご使用になることはおやめください。

また設置の前に、「安全のために」を必ずお読みください。

- 心臓ペースメーカーをご使用の近くで、本製品をご使用にならないでください。
  心臓ペースメーカーに電磁妨害を及ぼし、生命の危険があります。
- 医療機器の近くで、本製品をご使用にならないでください。
  医療機器に電磁妨害を及ぼし、生命の危険があります。
- 電子レンジの近くで、本製品をご使用にならないでください。
  電子レンジによって、本製品の無線通信への電磁妨害が発生します。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、工場の製造ラインで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。

1 この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。

2 万が一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに電波の発射を停止した上、弊社サポートセンターにご連絡頂き、混信回避のための処置等についてご相談して下さい。

3 その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、弊社サポートセンターにお問い合わせ下さい。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

本書の読みかた

各ページの構成と記号について説明します。

章見出し

中見出し

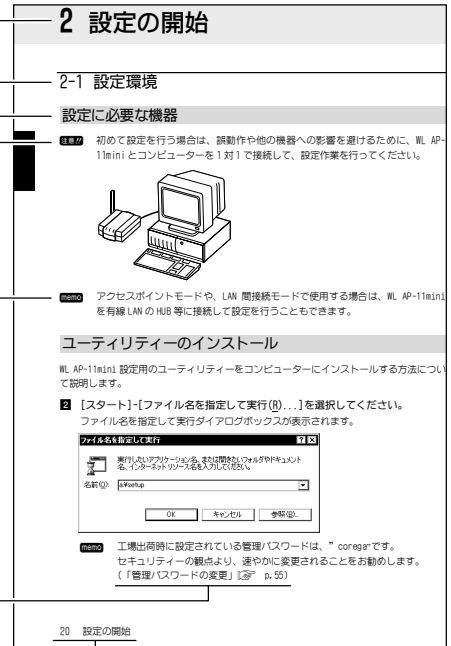
小見出し

注意
操作中に気をつけていただきたい内容です。必ずお読みください。

メモ
補足事項や知っていただきたい内容です。

参照ページ
関連事項を記載している個所を示しています。

ページ
このページは、取扱説明書の読み方を説明しています。
実際のページ内容とは異なります。



目　次

はじめに…… 4
本製品の最新情報…… 4
電波に関する注意…… 5
本書の読みかた…… 6
目　次…… 7

1　製品の概要 …… 10
1-1　特長…… 10
1-2　パッケージの確認…… 11
1-3　各部の名称と機能…… 12
1-4　無線 LAN について…… 15
無線 LAN を構築する要素…… 15
相互接続性…… 17
1-5　何と何を繋ぐのか？…… 17
コンピューターを、無線で有線 LAN に接続する(インフラストラクチャ形)…… 17
コンピューター同士を無線のみで接続する(アドホック形)…… 18
有線 LAN 同士を無線で接続する(LAN 間接続形) …… 19

2　設定の開始 …… 20
2-1　設定環境…… 20
設定に必要な機器…… 20
設定のための接続…… 20
2-2　コンピューター側の準備…… 21
IP アドレス設定について …… 21
ユーティリティーのインストール…… 22
2-3　設定の開始…… 25
機器の接続と起動…… 25
ユーティリティーの起動…… 27
IP アドレスの変更 …… 28
ユーティリティーの終了…… 30

3 構成別の設定方法 ····· 31
3-1 アクセスポイントとして使用する(アクセスポイントモード)····· 31
接続····· 32
WL AP-11mini の設定 ····· 33
コンピューター側の設定····· 37
動作確認····· 39
運用の開始····· 39
3-2 ステーション側で使う(Infrastructure モード) ····· 40
接続····· 31
WL AP-11mini の設定 ····· 42
動作確認····· 45
運用の開始····· 45
3-3 無線 LAN のみで使う(AdHoc モード) ····· 46
接続····· 47
WL AP-11mini の設定 ····· 48
動作確認····· 51
運用の開始····· 51
3-4 LAN 間接続に使用する ····· 52
接続····· 53
WL AP-11mini の設定 ····· 54
動作確認····· 59
運用の開始····· 59

4 その他の機能 ····· 60
4-1 管理パスワードの変更····· 60
4-2 ファームウェアのアップデート····· 62
4-3 ステータス····· 64
4-4 環境設定····· 66
4-5 検索····· 68
4-6 初期化····· 69
4-7 バージョン情報····· 70

5 トラブルシューティング ····· 71
5-1 通信ができない ····· 71
5-2 無線 LAN カードを装備したコンピューターと接続できない ····· 72
5-3 「ネットワークコンピューター」に他のコンピューターが表示されない ····· 72
5-4 正常に動作しない ····· 72
5-5 その他 ····· 73

付録 ····· 74
A 製品仕様 ····· 74
B 工場出荷時の設定 ····· 75
C MAC アドレスについて ····· 76
D Both モードについて ····· 77
E 用語集 ····· 78
F 保証と修理について ····· 80
保証について ····· 80
修理について ····· 80
G ユーザーサポートについて ····· 81
corega Net-News の購読について ····· 81
調査依頼書のご記入のお願い ····· 82
最新ファームウェアの入手方法 ····· 83
H おことわり ····· 84

1 製品の概要

1-1 特長

corega Wireless LAN AP-11mini(以下、「WL AP-11mini」と略します)は、次の特長を持つ、多機能無線 LAN アクセスポイントです。

- 多彩な機能
  アクセスポイント、ステーション、LAN 間接続の 3 つのモードに対応しています。
  AdHoc 無線 LAN の構築、Infrastructure 無線 LAN の構築、2 つの有線 LAN 間の無線通信を実現できます。
- あらゆる機器を無線 LAN に接続
  Ethernet インタフェースを装備していれば、さまざまな OS のコンピューターや、プリンターなどを無線 LAN 化することができます。

  memo 設定には、Windows95/98/Me/NT4.0/2000 がインストールされたコンピューターが必要です。
- 簡単で便利なユーティリティー
  付属のユーティリティーを使って、アクセスポイントの通信状態の確認をはじめ、いろいろな設定を簡単に行うことが可能です。

  memo ユーティリティーソフトを使用するには、本製品とコンピューターとを有線 LAN 接続する必要があります。
- 高速 11Mbps
  高速度(最大 11Mbps)でのデータ伝送を実現します。
- ワイドな接続性
  無線 LAN 規格 IEEE802.11、IEEE802.11b 準拠により、同規格準拠の他社製品(ルーセントテクノロジー製チップ搭載製品など)との接続性を提供します。

  memo corega ホームページで、接続性情報を提供しています。
- 万全なセキュリティ
  SSID により、不正なコンピューターからのアクセスをシャットアウトできます。
- ノイズに強い DS-SS 方式
  DS-SS 方式(直接拡散スペクトラム拡散方式)は、特定の広い(2.4GHz 帯域)周波数を同時に使用して通信するため、他の信号に邪魔されずに交信を行って、ノイズの影響を受けることない通信を可能にします。

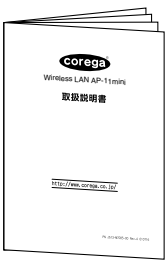
1-2 パッケージの確認

本製品パッケージの内容は、次の通りです。

memo　下記以外に添付紙が同梱されている場合があります。

お買い上げ商品についてご確認いただき、万一不足するものがございましたら、お手数ですが、弊社サポートセンターまでご連絡ください。

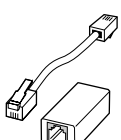
シリアル番号ラベル×3 枚



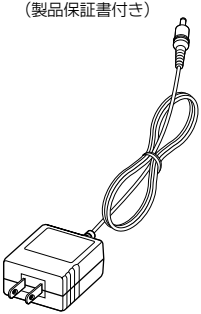
取扱説明書×1 個
(製品保証書付き)

corega Wireless LAN
AP-11mini 本体×1 個

ユーティリティーディスク×1 枚
(Win95/98/Me/NT4.0/2000 対応)



RJ-45 クロス
変換キット×1 個



AC アダプター×1 個

注意!!　WL AP-11mini と HUB、CATV/ADSL モデム等を接続する場合、10BASE-T クロスケーブルが必要です。10BASE-T ストレートケーブルに RJ-45 クロス変換キットを接続することにより、10BASE-T クロスケーブルとしてご使用いただけます。

1-3 各部の名称と機能

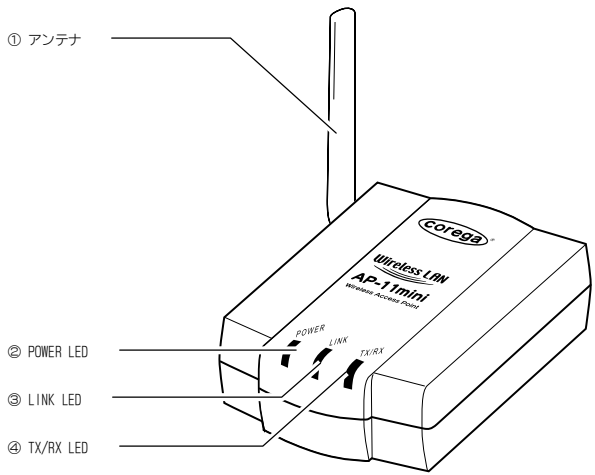
前面

① アンテナ　電波の送受信を行います。
折りたたむことが可能です。

② POWER LED　電源が正常に供給されているときに、緑色に点灯します。

③ LINK LED　有線 LAN 側の機器が通信可能な状況にあるときに、緑色に点灯します。

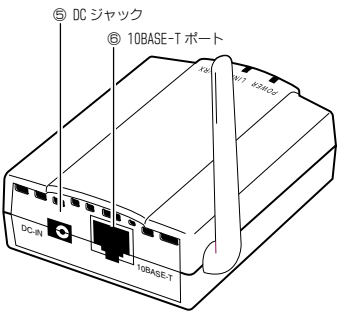
④ TX/RX LED　通信が行われているときに、緑色に点滅します。



背面

⑤ DC ジャック
AC アダプターの DC プラグを接続するためのコネクターです。

⑥ 10BASE-T ポート
10BASE-T の UTP ケーブルを接続するためのコネクターです。
HUB 等と接続する場合には、UTP クロスケーブルを使用するか、カスケードポートに接続してください。
また、LAN アダプターを取り付けたコンピューターと接続する場合には UTP ストレートケーブルで接続してください。



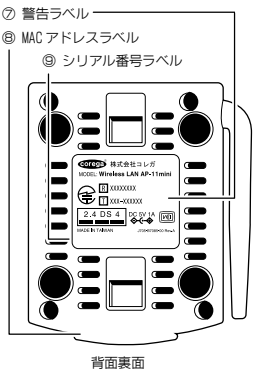
背面

裏面

⑦ 警告ラベル
本製品を安全にご使用いただくために、重要な情報が記載されています。
必ずお読みください。

⑧ MAC アドレスラベル
本製品の MAC アドレスが記入されています。

⑨ シリアル番号ラベル
本製品のシリアル番号(製造番号)とリビジョンが記入されています。
同じ物が 3 枚同梱されており、パッケージ(外箱)にも貼付されています。同梱されているシリアル番号ラベルは、「製品保証書」に貼付してください(残る 2 枚は、予備です)。
シリアル番号とリビジョンは、ユーザーサポートへお問い合わせいただく際に、必要な情報です。



背面裏面

memo 本製品に内蔵されている LAN カードには、2.4 DS 4 記号が表示されています。
この表示は次の内容を意味しています。

使用周波数帯域	2.4GHz 帯
変調方式	DS-SS 方式
想定干渉距離	20m 以下
周波数変更の可否	全帯域を使用し、かつ「構内局」あるいは「特小局」帯域を回避可能

1-4 無線 LAN について

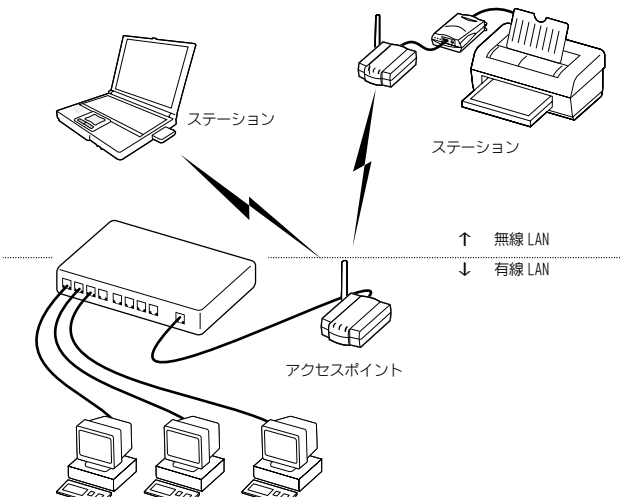
無線 LAN を構築する要素

無線 LAN はステーションと、アクセスポイントから構成されます。

・ステーション
無線 LAN 機器(WL AP-11mini や無線 LAN カードなど)を装備したコンピューターやプリンターなど。

・アクセスポイント
無線 LAN と有線 LAN とを接続するための機器を、「アクセスポイント」と呼びます。

memo WL AP-11mini は動作モードを切り替えることにより、ステーションとして、またはアクセスポイントとしても使用できます。

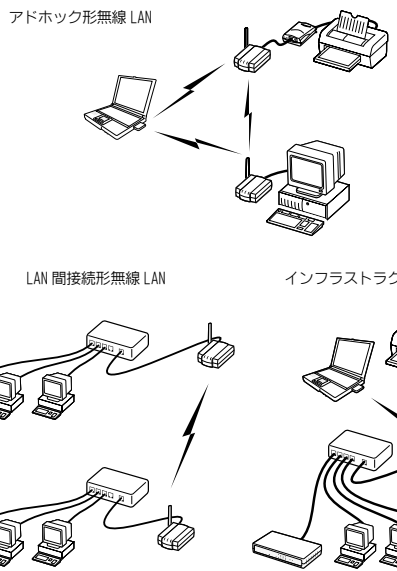


memo WL AP-11mini を使用することで、プリンターを LAN 環境でご使用いただけます。

注意!! WL AP-11mini とプリンターを接続するためには、プリンターにネットワークアダプターを搭載するか、プリントサーバーを使用する必要があります。

無線 LAN では、ステーションとアクセスポイントの組み合わせにより、次の 3 種類のネットワーク形態を構築することができます。

- アドホック形無線 LAN
  ステーションだけで構成されており、ステーションが相互に通信を行うタイプのネットワークです。
- インフラストラクチャ形無線 LAN
  有線 LAN の一部に接続されたアクセスポイントを通して、ステーションと有線 LAN とが、またはステーション同士が通信を行うタイプのネットワークです。
- LAN 間接続形無線 LAN
  それぞれ接続されたアクセスポイントを通して、2 つの有線 LAN 間を無線によって接続するタイプのネットワークです。



memo WL AP-11mini は動作モードを切り替えることにより、どのネットワーク形態にも使用することができます。

相互接続性

WL AP-11mini は、IEEE802.11 および IEEE802.11b という、無線 LAN の規格に準拠しており、同じ規格に準拠した他の無線 LAN 機器とも、相互に通信が可能です。

memo　一部機能に制限が生じたり、接続できないケースもあります。

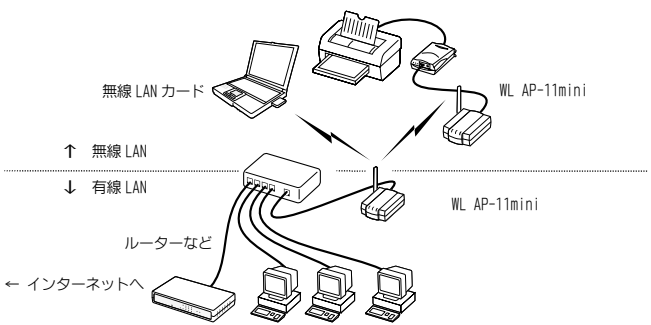
memo　相互接続の実績についての詳細は、corega のホームページにて、順次公開いたします。

1-5 何と何を繋ぐのか?

ここでは無線 LAN の一般的な利用形態と併せて、WL AP-11mini がそれぞれの利用形態において、どのような役割を果たすことができるのかを解説します。

コンピューターを、無線で有線LANに接続する(インフラストラクチャ形)

すでに有線 LAN が存在する場合や、無線 LAN を経由してインターネットにアクセスしたい場合などに構築するネットワーク形態です。



個々のステーションでは、必ずアクセスポイントを経由して通信が行われます。
WL AP-11mini は、アクセスポイントとしても、またステーションとしても、使用することができます。

注意!! AdHoc モードに設定した無線 LAN 機器は、アクセスポイントとは通信できません。

memo 用途に応じて、WL AP-11mini のモードを切り替えてください。
アクセスポイントとして使用する場合：アクセスポイントモード
ステーションとして使用する場合　：Infrastructure モード

memo 設定についての詳細は「3-1 アクセスポイントとして使用する」(☞ p.31)、および「3-2 ステーション側で使う」(☞ p.40)を参照してください。

コンピューター同士を無線のみで接続する(アドホック形)

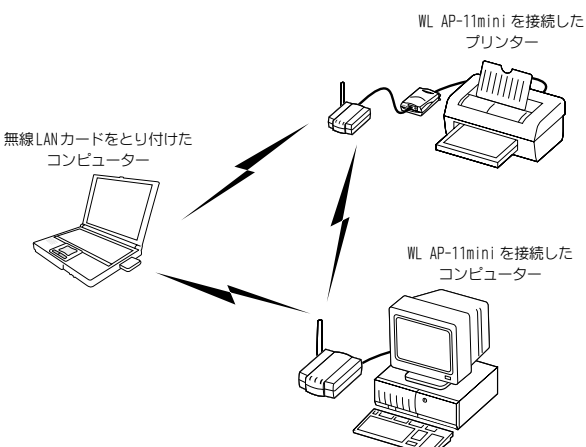
WL AP-11mini などの無線 LAN 機器のみで構築するネットワーク形態です。

注意!! 有線 LAN と接続することはできません。

注意!! インターネットとの通信には使用できません。

注意!! AdHoc モードに設定した無線 LAN 機器は、アクセスポイントが存在しても、通信できません。

次図に示すように、ステーションのみでネットワークを構築する際に、使用してください。

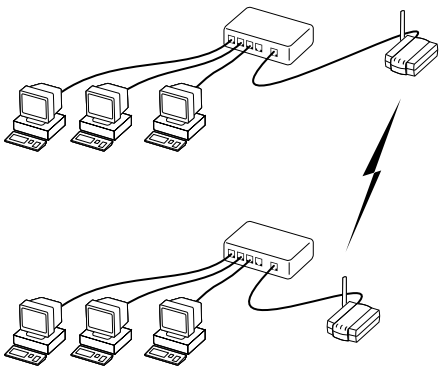


memo 設定についての詳細は、「3-3 無線 LAN のみで使う」(☞ p.46)を参照してください。

有線 LAN 同士を無線で接続する(LAN 間接続形)

2 つの有線 LAN を、無線で接続したい場合に構築するネットワーク形態です。

WL AP-11mini を 2 台セットで使用し、離れた場所にある 2 つの LAN を相互に接続することができます。



注意!! 有線 LAN モードの WL AP-11mini に対しては、他のステーションやアクセスポイントからは、通信できません。

memo それぞれの有線 LAN には、16 台までのコンピューターを接続することができます。

memo 設定についての詳細は「3-4 LAN 間接続に使用する」(☞ p.52)を参照してください。

2 設定の開始

2-1 設定環境

設定に必要な機器

WL AP-11mini の設定を行うためには次の機器が必要です。

・次の条件を満たすコンピューター
有線 LAN(Ethernet)の LAN カードを装備している
Windows95/98/Me/NT4.0/2000 のいずれかがインストールされている
TCP/IP が組み込まれている
フロッピーディスクドライブが装備されている
InternetExplorer4.01 以上がインストールされている

・ストレートタイプの 10BASE-T ケーブル(カテゴリー3 以上の UTP ケーブル)

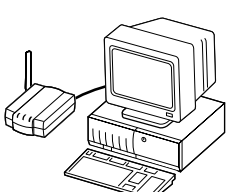
memo コンピューターへの LAN カードの取り付け方法や、設定方法についての詳細は、LAN カードに付属の取扱説明書を参照してください。

memo InternetExplorer を設定時に使用することはありませんが、ユーティリティーの動作条件となっているため、InternetExplorer4.01 以上がインストールされている必要があります。

memo Windows NT4.0 に IE4.01 以上をインストールする場合、サービスパック3以上が必要になります。

設定のための接続

注意!! 初めて設定を行う場合は、誤動作や他の機器への影響を避けるために、WL AP-11mini とコンピューターを 1 対 1 で接続して、設定作業を行ってください。



memo アクセスポイントモードや、LAN 間接続モードで使用する場合は、WL AP-11mini を有線 LAN の HUB 等に接続して設定を行うこともできます。

2-2 コンピューター側の準備

IP アドレス設定について

WL AP-11mini の設定用コンピューターには、以下の IP アドレス設定をしておく必要があります。

IP アドレス：192.168.0.1～192.168.0.254 の任意の IP アドレス
サブネットマスク：255.255.255.0

memo 本書では、設定用コンピューターの IP アドレスを以下に設定したものとして、説明しています。
設定用コンピューターの IP アドレス値：192.168.0.1

memo TCP/IP の組み込み方法や設定方法についての詳細は、LAN カードに付属の取扱説明書を参照してください。

次の流れにしたがって、コンピューターの IP アドレスを設定してください。

1 コンピューターの現在の IP アドレスとサブネットマスクの設定内容を紙などに書き留めてください。

WL AP-11mini の IP アドレス設定が完了した時点で、コンピューターの IP アドレス設定を元に戻す際に使用します。

2 コンピューターの IP アドレスを次の値に変更してください。

IP アドレス：192.168.0.1～192.168.0.254 の任意の IP アドレス
サブネットマスク：255.255.255.0

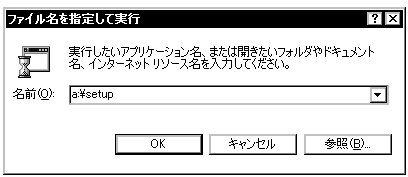
memo 本書では以下の値を例に、説明しています。
設定用コンピューターの IP アドレス値：192.168.0.1
運用時の IP アドレス値：172.16.0.1～172.16.0.254
サブネットマスク値：255.255.255.0

ユーティリティーのインストール

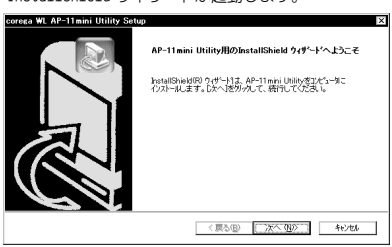
WL AP-11mini 設定用のユーティリティーをコンピューターにインストールする方法について説明します。

1 ユーティリティーディスクをコンピューターのフロッピーディスクドライブに挿入してください。

2 [スタート]-[ファイル名を指定して実行(R)...]を選択してください。
ファイル名を指定して実行ダイアログボックスが表示されます。

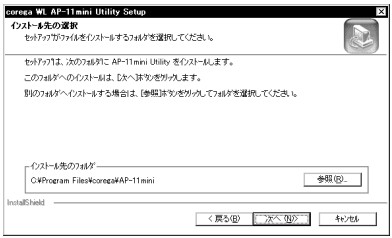


3 名前欄に「a:¥setup」と入力し、OK をクリックしてください。
InstallShield ウィザードが起動します。



4 次へ(N)> をクリックしてください。

インストール先の選択が表示されます。



memo インストール先のフォルダを変更したい場合は、参照(R)... をクリックし、インストールしたいフォルダを選択してください。
通常は、変更する必要はありません。

5 次へ(N)> をクリックしてください。

プログラムフォルダの選択が表示されます。

memo ここで設定した名称で、スタートメニュー内にユーティリティーの起動用メニューが作成されます。
変更する必要はありません。

6 次へ(N)> をクリックしてください。

InstallShield ウィザードの完了が表示されます。

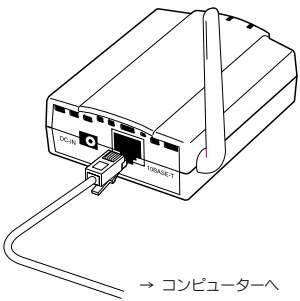
7 完了 をクリックしてください。

ユーティリティーのインストールが完了し、InstallShield ウィザードが終了します。

2-3 設定の開始

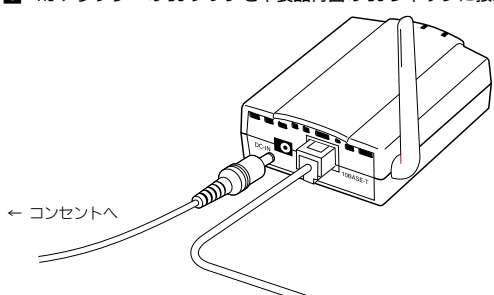
機器の接続と起動

1 WL AP-11mini 背面の 10BASE-T ポートに、10BASE-T ケーブル(ストレート)を接続してください。



2 10BASE-T ケーブル(ストレート)のもう一方の端を、コンピューターのポートに接続してください。

3 AC アダプターの DC プラグを本製品背面の DC ジャックに接続してください。



4 AC アダプターの AC プラグをコンセントに接続してください。

数秒で WL AP-11mini が起動します。

5 POWER LED が点灯していることを確認してください。

memo POWER LED が点灯しない場合は、AC アダプターが正しく接続されていることを確認してください。
それでも改善されない場合は、購入された販売店までお問い合わせいただくか、巻末の「ユーザーサポート」に従って弊社までお問い合わせください。

6 コンピューターの電源を ON にしてください。

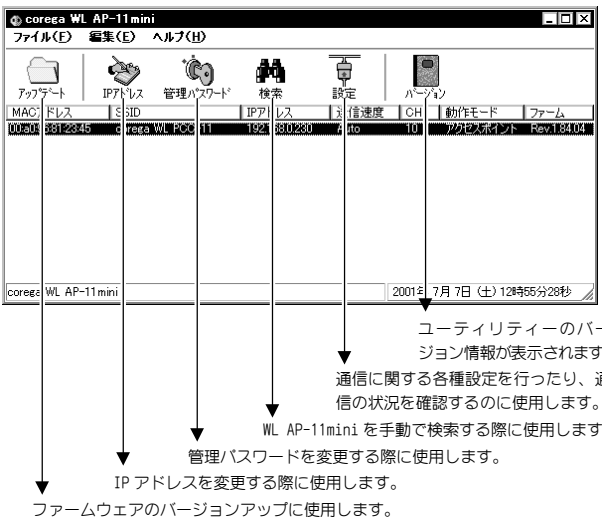
7 コンピューターが起動した時点で、LINK LED が点灯していることを確認してください。

memo LED が点灯しない場合は、もう一度各機器の接続等を確認してください。
それでも改善されない場合は、購入された販売店までお問い合わせいただくか、巻末の「ユーザーサポート」に従って弊社までお問い合わせください。

ユーティリティーの起動

1 コンピューターから、[スタート]-[プログラム(P)]-[AP-11mini]-[AP-11mini Utility]を選択してください。

メインウィンドウが表示され、自動的に WL AP-11mini がリストアップされます。



ユーティリティーのバージョン情報が表示されます。

通信に関する各種設定を行ったり、通信の状況を確認するのに使用します。

WL AP-11mini を手動で検索する際に使用します。

管理パスワードを変更する際に使用します。

IP アドレスを変更する際に使用します。

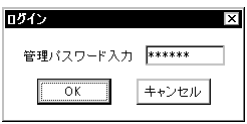
ファームウェアのバージョンアップに使用します。

IP アドレスの変更

WL AP-11mini の IP アドレスを運用に使用する値に変更することで、実際に運用に使用する IP アドレスで、以降の設定作業を行えるようになります。

1 メインウィンドウから IP アドレス をクリックするか、メニューから[編集(E)]-[IP アドレス設定(I)]を選択してください。

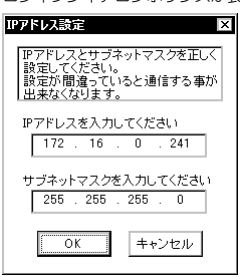
ログインダイアログボックスが表示されます。



memo　工場出荷時に設定されている管理パスワードは、「corega」です。
セキュリティーの観点より、運用開始後は、速やかに変更されることをお勧めします。(「4-1 管理パスワードの変更」☞ p.60)

2 管理パスワード入力欄に「corega」と入力し、OK をクリックしてください。

ログインダイアログボックスが表示されます。

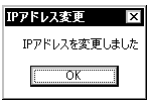


memo　WL AP-11mini は、IP アドレスの自動取得(DHCP)には対応していません。
手動で IP アドレスを設定してください。

memo　工場出荷時に設定されている IP アドレスは、192.168.0.230、サブネットマスクは 255.255.255.0 です。

3 運用で使用する IP アドレスとサブネットマスクを入力し、OK をクリックしてください。

IP アドレス変更ダイアログボックスが表示されます。



4 OK をクリックしてください。

WL AP-11mini の IP アドレスとサブネットマスクが変更され、メインウィンドウが表示されます。

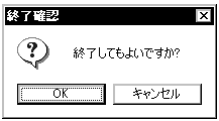
IP アドレスが変更されていることを確認してください。

memo コンピューターと WL AP-11mini のサブネットが違ってしまうため、コンピューターの IP アドレスを運用に使用する値に変更する必要があります。

ユーティリティーの終了

1 メニューから[ファイル(F)]-[終了(X)]を選択してください。

終了確認ダイアログボックスが表示されます。



2 OK をクリックしてください。

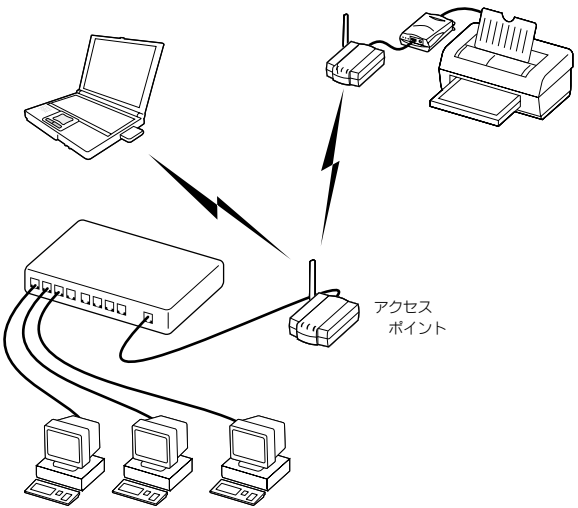
ユーティリティーが終了します。

注意!! コンピューターの IP アドレスを運用時の値に戻しておいてください。以後の設定ができなくなります。

3 構成別の設定方法

3-1 アクセスポイントとして使用する(アクセスポイントモード)

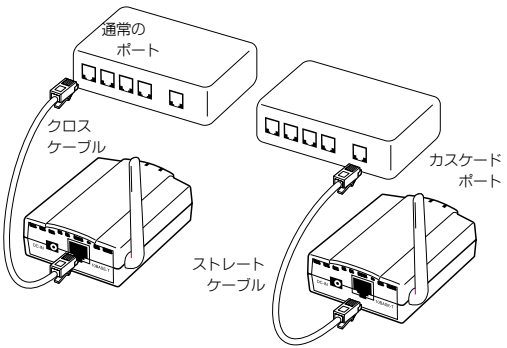
WL AP-11mini は無線 LAN と有線 LAN を繋ぐアクセスポイントとしても使用できます。
ここでは次図に示すネットワークを例に説明します。



注意!! IP アドレスが正しくない場合は設定ができません。
あらかじめ WL AP-11mini の IP アドレスを変更しておいてください。
(☞ 「2 設定の開始」p. 20)

接続

1 WL AP-11mini と HUB を 10BASE-T クロスケーブルで接続するか、または 10BASE-T ケーブルストレートケーブルで HUB のカスケードポートに接続してください。



memo カスケードポートをスイッチで設定するタイプの HUB と 10BASE-T ケーブル(ストレート)で接続する場合は、HUB のカスケードスイッチを MDI、UP-LINK、HUB 等に設定してください。

2 設定用のコンピューターを有線 LAN に接続してください。

3 各機器の電源を ON にしてください。

WL AP-11mini の設定

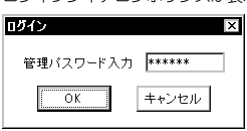
設定用コンピューターで WL AP-11mini の設定を行います。

1 [スタート]-[プログラム(P)]-[AP-11mini]-[AP-11mini Utility]を選択してください。

メインウィンドウが表示され、自動的に WL AP-11mini がリストアップされます。

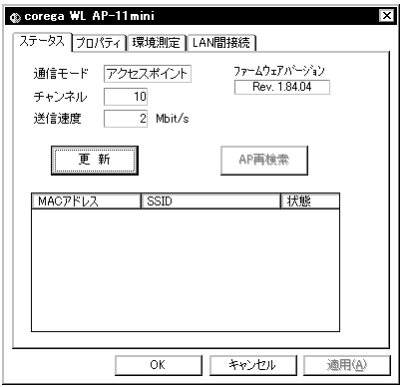
2 メインウィンドウから設定 をクリックするか、メニューから[編集(E)]-[設定(C)]を選択してください。

ログインダイアログボックスが表示されます。

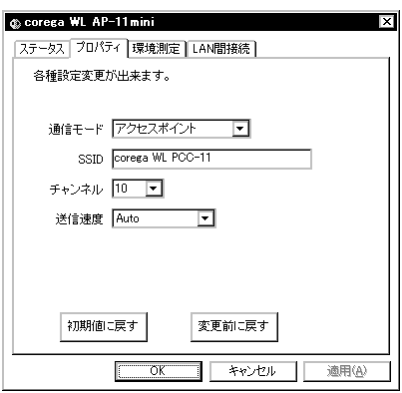


memo　工場出荷時に設定されている管理パスワードは、「corega」です。
セキュリティーの観点より、運用開始後は、速やかに変更されることをお勧めします。(「4-1 管理パスワードの変更」☞ p.60)

3 パスワードを入力し、[OK] をクリックしてください。
設定ダイアログボックスが表示されます。



4 [プロパティ] をクリックしてください。
プロパティタブが表示されます。



①通信モード

アクセスポイントを選択してください。

memo 工場出荷時にアクセスポイントモードに設定されています。
変更する必要はありません。

②SSID

無線 LAN を構成するコンピューターをグルーピングするための名前です。
任意の文字列を入力してください。
同じネットワークに属するコンピューター同士には、同じ SSID を設定してください。

注意!! セキュリティの観点より、SSID を変更されることをお勧めします。

注意!! 同じSSIDが設定されたアクセスポイントが無線通信可能な範囲に存在する場合は、混信により通信障害が発生することがあります。

注意!! ステーションとして使用するコンピューターには、ここで設定したものと同じ SSID を設定してください。

memo 工場出荷時の SSID は、「corega WL PCC-11」に設定されています。

memo SSID には、32 文字以内の半角英数文字および記号を使用できます。
使用できる記号は、次のとおりです。
!"#$%&'()*+,-./:;<=>?@[¥]^_{|}¯

③チャンネル

1〜13 から任意のチャンネルを選択してください。

注意!! 電波の届く範囲に他のアクセスポイントが存在する場合は、混信の恐れがあります。
5 チャンネル以上ずれたチャンネルを設定してください。

memo チャンネルによって通信に使用する電波の周波数が異なります。

memo 工場出荷時のチャンネルは、「10」に設定されています。
近くに他のアクセスポイントが存在しない場合は、変更する必要はありません。

④通信速度

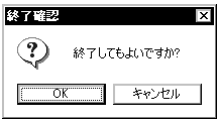
無線 LAN で使用する通信速度を選択できます。
通常は、変更する必要はありません。

memo 工場出荷時の通信速度は、「Auto」に設定されています。

5 OK をクリックしてください。

設定内容が WL AP-11mini の動作に反映されます。
設定ダイアログボックスが閉じ、メインウィンドウが表示されます。

6 メニューから[ファイル(F)]-[終了(X)]を選択してください。
終了確認ダイアログボックスが表示されます。



7 OK をクリックしてください。
ユーティリティーが終了します。

コンピューター側の設定

無線 LAN 端末(ステーション)として使用するコンピューターは、アクセスポイントと設定を合わせる必要があります。

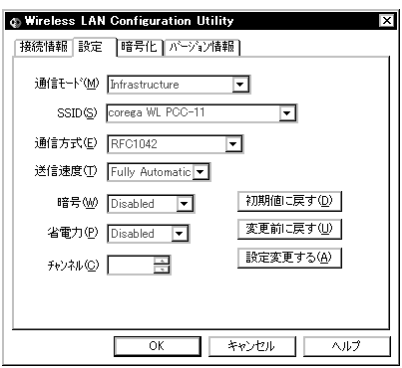
memo　設定についての詳細は、LAN カードに付属の取扱説明書を参照してください。

memo　ステーション側の無線 LAN 装置として WL AP-11mini を使用する場合は、「3-2 ステーション側で使う」(☞ p.40)を参照してください。

無線 LAN カードを装備したコンピューターでは、専用ツールにより無線 LAN の設定を変更することができます。

ここでは一般的な無線 LAN の設定について説明します。

1 無線 LAN の設定



memo　上記設定ダイアログボックスは、WL PCC シリーズの場合の例です。

①通信モード

Infrastructure モードに設定してください。

注意!!　AdHoc モードに設定した場合は、アクセスポイントと通信できません。

②SSID

アクセスポイントに設定した SSID と同じものと設定してください。

memo　機種によっては、「ESSID」と呼ばれていることがあります。

memo SSIDには、32文字以内の半角英数文字および記号を使用できます。
使用できる記号は、次のとおりです。
!"#$%&'()*+,-./:;<=>?@[¥]^_{|}~

③通信方式
通信モードがInfrastructureモードの場合は、「RFC1042」を選択してください。

memo 本設定項目が設けられていない機種の場合は、適切な値が自動的に設定されます。
特に気にする必要はありません。

④通信速度
通常は「Fully Automatic」、「Auto」を選択してください。

⑤暗号
「Disable」に設定してください。
WL AP-11miniは暗号に対応していません。

⑥省電力
任意に設定してください。
無線通信とは関係ありません。

⑦チャンネル
設定する必要はありません。
Infrastructureモードの場合は、アクセスポイントで使用されているチャンネルが自動的に設定されます。

2 ネットワークの設定

ステーションとして使用するコンピューターは、IEEE802.11またはIEEE802.11bに準拠した無線LANインターネットを装備していれば、OSやネットワークプロトコルを問わず、WL AP-11miniに無線で接続することができます。
したがって、アクセスポイントであるWL AP-11miniを経由して接続する有線LANの環境に合わせて設定してください。

動作確認

ステーションとして使用するコンピューターから、有線 LAN 側にあるプリンターに印刷したり、ファイルサーバーを参照するなどして、通信が行えていることを確認してください。

また、ユーティリティーからステーションの接続状況を参照することができます。

1 [スタート]-[プログラム(P)]-[AP-11mini]-[AP-11mini Utility]を選択してください。

メインウィンドウが表示されます。

2 メインウィンドウから設定 をクリックするか、メニューから[編集(E)]-[設定(C)]を選択してください。

ログインダイアログボックスが表示されます。

3 パスワードを入力し、 OK をクリックしてください。

設定ダイアログボックスが表示され、WL AP-11miniに正常に接続できているステーションの一覧が表示されます。

運用の開始

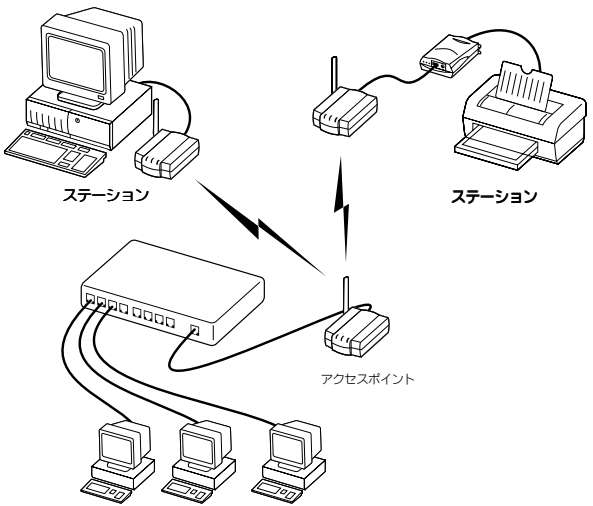
以上で、WL AP-11mini をアクセスポイントとして使う場合の設定が完了しました。

そのままネットワークを使用してください。

3-2 ステーション側で使う(Infrastructure モード)

WL AP-11mini をコンピューターやプリンターに接続して、無線 LAN 端末(ステーション)として使用することができます。

アクセスポイントモードに設定した WL AP-11mini や、corega Wiress LAN AP-11 等の IEEE802.11 および IEEE802.11b に対応したアクセスポイントに無線で接続し、有線 LAN やインターネットとの通信を行うことができます。



注意!! あらかじめ WL AP-11mini の IP アドレスを変更しておいてください。
IP アドレスが正しく設定されていない場合は設定を行うことができません。
(☞ 「2 設定の開始」p. 20)

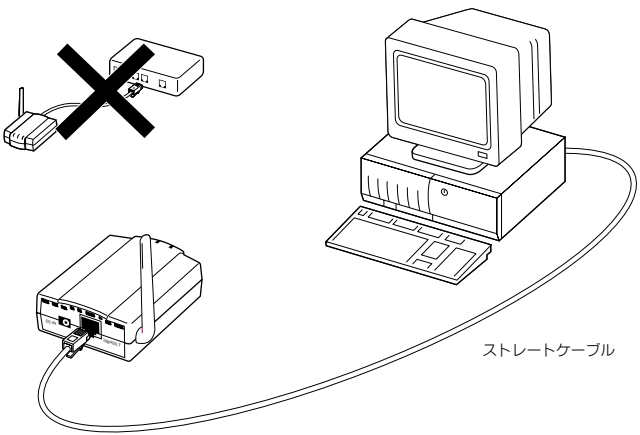
注意!! 事前にアクセスポイントの設定を済ませておいてください。
アクセスポイントの設定についての詳細は、アクセスポイント付属の取扱説明書を参照してください。

注意!! WL AP-11mini とプリンターを接続するためには、プリンターにネットワークアダプターを搭載するか、プリントサーバーを使用する必要があります。

接続

1 WL AP-11mini と設定用のコンピューターを、10BASE-T ケーブル(ストレート)で接続してください。

注意!! Infrastructure モードで使用する場合は、必ずコンピューターやプリンターと 1 対 1 で接続してください。
HUB 等には接続しないでください。



2 各機器の電源を ON にしてください。

注意!! WL AP-11mini をプリンター等の Windows が動作しない機器に装備したい場合は、あらかじめ Windows が動作するコンピューターによって設定を行う必要があります。

注意!! WL AP-11mini は無線 LAN 側から設定を変更することができません。
Windows が動作しない機器に装備した WL AP-11mini の設定を変更したい場合は、いったんWindowsが動作するコンピューターに接続しなおして設定を行ってください。

WL AP-11mini の設定

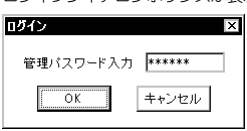
設定用のコンピューターで WL AP-11mini の設定を行います。

1 [スタート]-[プログラム(P)]-[AP-11mini]-[AP-11mini Utility]を選択してください。

メインウィンドウが表示され、自動的に WL AP-11mini がリストアップされます。

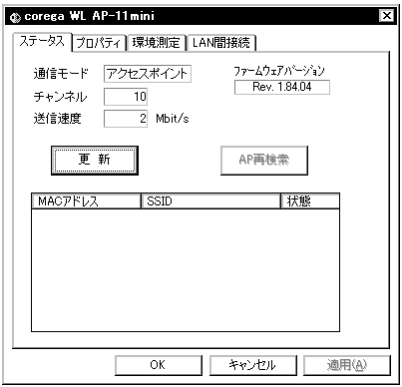
2 メインウィンドウから設定 をクリックするか、メニューから[編集(E)]-[設定(C)]を選択してください。

ログインダイアログボックスが表示されます。

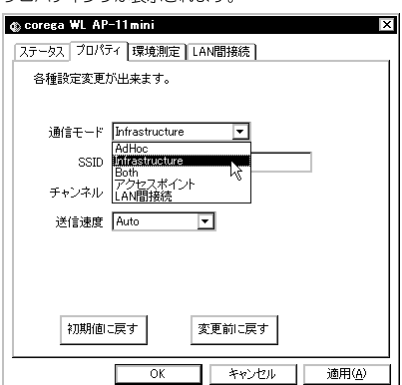


memo　工場出荷時に設定されている管理パスワードは、「corega」です。
セキュリティーの観点より、運用開始後は、速やかに変更することをお勧めします。(「4-1 管理パスワードの変更」☞ p.60)

3 パスワードを入力し、OK をクリックしてください。
設定ダイアログボックスが表示されます。



4 プロパティ をクリックしてください。
プロパティタブが表示されます。



①通信モード

「Infrastructure」を選択してください。

memo 工場出荷時はアクセスポイントに設定されていますので、変更してください。

②SSID

無線 LAN を構成するコンピューターをグルーピングするための名前です。

接続したいアクセスポイントに設定されている SSID と同じ文字列を入力してください。

memo 工場出荷時の SSID は、「corega WL PCC-11」に設定されています。

memo SSID には、32 文字以内の半角英数文字および記号を使用できます。
使用できる記号は、次のとおりです。
!"#$%&'()*+,-./:;<=>?@[¥]^_{|}¯

③チャンネル

接続したいアクセスポイントに設定されているものと同じチャンネルを、選択してください。

memo Infrastructure モードでは、アクセスポイントを全チャンネルに渡り自動的に検索しますが、ここで指定したチャンネルから検索が開始されます。

memo 工場出荷時のチャンネルは、「10」に設定されています。

memo チャンネルによって通信に使用する電波の周波数が異なります。

④通信速度

無線 LAN で使用する通信速度を選択できます。

通常は、変更する必要はありません。

memo 工場出荷時の通信速度は、「Auto」に設定されています。

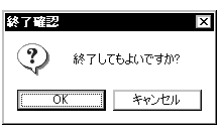
5 OK をクリックしてください。

設定内容が WL AP-11mini の動作に反映されます。

設定ダイアログボックスが閉じ、メインウィンドウが表示されます。

6 メニューから[ファイル(F)]-[終了(X)]を選択してください。

終了確認ダイアログボックスが表示されます。



7 OK をクリックしてください。

ユーティリティーが終了します。

動作確認

設定用コンピューターから、有線 LAN 側にあるプリンターに印刷したり、ファイルサーバーを参照するなどして、通信が行えていることを確認してください。

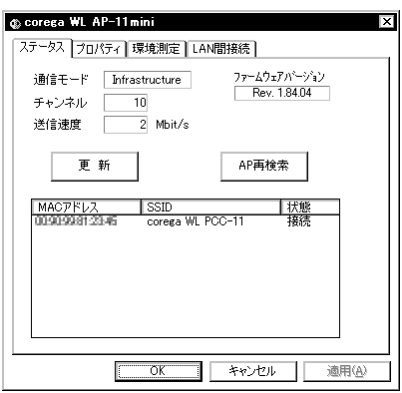
また、ユーティリティーからアクセスポイントへの接続状況を参照することができます。

1 [スタート]-[プログラム(P)]-[AP-11mini]-[AP-11mini Utility]を選択してください。

メインウィンドウが表示されます。

2 メインウィンドウから設定 をクリックするか、メニューから[編集(E)]-[設定(C)]を選択してください。

設定ダイアログボックスが表示され、WL AP-11mini が接続しているアクセスポイントがリストアップされます。



運用の開始

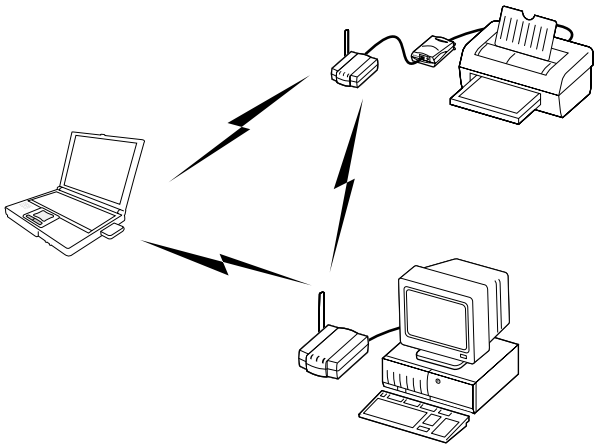
以上で、ステーション(Infrastructure モード)として使用する場合の設定が完了しました。

運用に使用するコンピューターを設定用に使用している場合は、そのままネットワークを使用してください。

設定用のコンピューターとは異なる機器に WL AP-11mini を接続して使用する場合は、この時点で繋ぎ換えてください。

3-3 無線 LAN のみで使う(AdHoc モード)

WL AP-11mini をコンピューターやプリンターに接続して、他の無線 LAN 端末(ステーション)と共に、無線 LAN のみの小規模なネットワークを構築することができます。

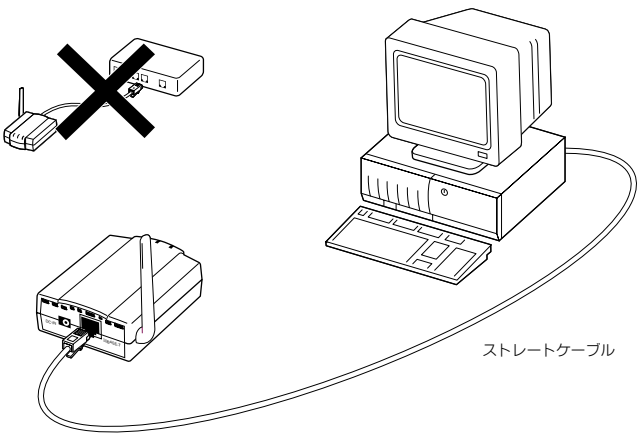


注意!! あらかじめ WL AP-11mini の IP アドレスを変更しておいてください。
IP アドレスが正しく設定されていない場合は設定を行うことができません。
(☞ 「2 設定の開始」p. 20)

接続

1 WL AP-11mini と設定用のコンピューターを、10BASE-T ケーブル(ストレート)で接続してください。

注意!! AdHoc モードで使用する場合は、必ずコンピューターやプリンターと 1 対 1 で接続してください。
HUB 等には接続しないでください。



2 各機器の電源を ON にしてください。

注意!! WL AP-11mini をプリンター等の Windows が動作しない機器に装備したい場合は、あらかじめ Windows が動作するコンピューターによって設定を行う必要があります。

注意!! WL AP-11mini は無線 LAN 側から設定を変更することができません。
Windows が動作しない機器に装備した WL AP-11mini の設定を変更したい場合は、いったんWindowsが動作するコンピューターに接続しなおして設定を行ってください。

WL AP-11mini の設定

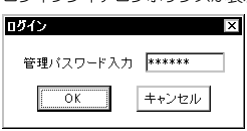
設定用のコンピューターで WL AP-11mini の設定を行います。

1 [スタート]-[プログラム(P)]-[AP-11mini]-[AP-11mini Utility]を選択してください。

メインウィンドウが表示され、自動的に WL AP-11mini がリストアップされます。

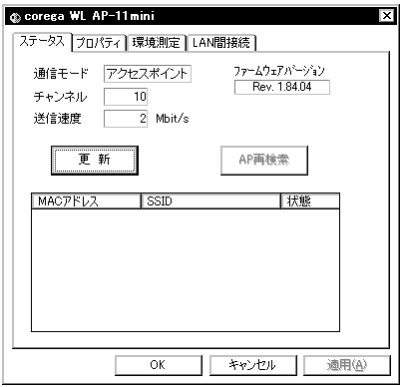
2 メインウィンドウから設定 をクリックするか、メニューから[編集(E)]-[設定(C)]を選択してください。

ログインダイアログボックスが表示されます。

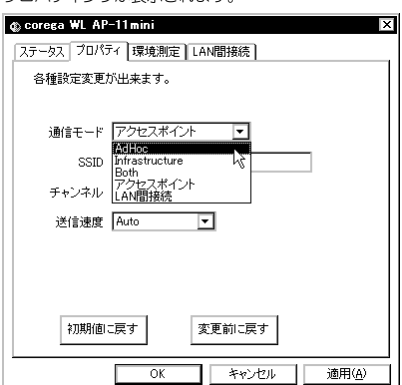


memo　工場出荷時に設定されている管理パスワードは、「corega」です。
セキュリティーの観点より、運用開始後は、速やかに変更することをお勧めします。(「4-1 管理パスワードの変更」☞ p.60)

3 パスワードを入力し、[OK] をクリックしてください。
設定ダイアログボックスが表示されます。



4 [プロパティ] をクリックしてください。
プロパティタブが表示されます。



①通信モード

「AdHoc」を選択してください。

memo　工場出荷時はアクセスポイントに設定されていますので、変更してください。

②SSID

変更する必要は、ありません。

memo　AdHoc モード時は、SSID が無効となります。

③チャンネル

他の無線 LAN 端末(ステーション)と同じチャンネルを選択してください。

memo　工場出荷時のチャンネルは、「10」に設定されています。

memo　チャンネルによって通信に使用する電波の周波数が異なります。

④通信速度

無線 LAN で使用する通信速度を選択できます。

通常は、変更する必要はありません。

memo　工場出荷時の通信速度は、「Auto」に設定されています。

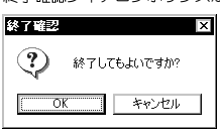
5 OK をクリックしてください。

設定内容が WL AP-11mini の動作に反映されます。

設定ダイアログボックスが閉じ、メインウィンドウが表示されます。

6 メニューから[ファイル(F)]-[終了(X)]を選択してください。

終了確認ダイアログボックスが表示されます。



7 OK をクリックしてください。

ユーティリティーが終了します。

動作確認

設定用コンピューターから、他の無線 LAN 端末(ステーション)に対して通信を行ってみてください。

memo AdHoc モードにしている場合は、接続相手がリストアップされず、ステータス表示による接続状況の確認を行うことができません。

運用の開始

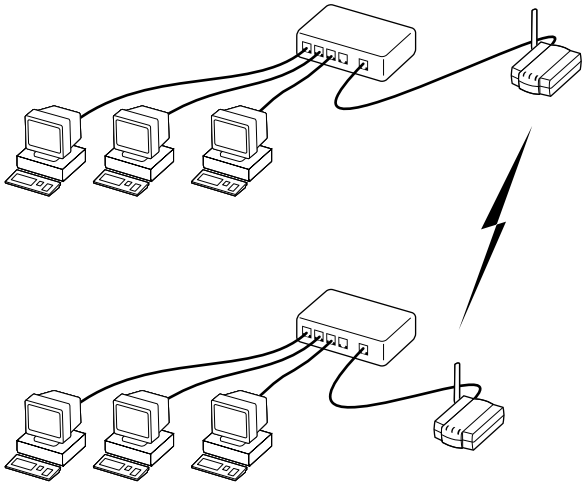
以上で、WL AP-11mini をステーション(AdHoc モード)として使用する場合の設定が完了しました。

運用に使用するコンピューターを設定用に使用している場合は、そのままネットワークを使用してください。

設定用のコンピューターとは異なる機器に WL AP-11mini を接続して使用する場合は、この時点で繋ぎ換えてください。

3-4 LAN 間接続に使用する

WL AP-11mini を使って 2 つの有線 LAN を無線で接続することができます。
ここでは次図に示すネットワークを例に説明します。



注意!! LAN 間接続モードで使用する場合は、WL AP-11mini 同士を対向で使用してください。
他のアクセスポイント等と組み合わせて LAN 間接続を行うことはできません。

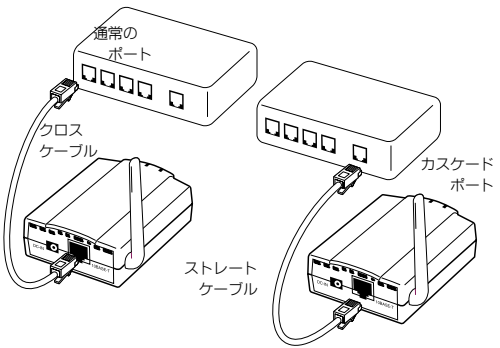
注意!! LAN 間接続モードに設定した WL AP-11mini に、ステーションから接続することはできません。

注意!! あらかじめ WL AP-11mini の IP アドレスを変更しておいてください。
IP アドレスが正しく設定されていない場合は設定を行うことができません。
(☞ 「2 設定の開始」p. 20)

接続

1 WL AP-11mini と HUB を、10BASE-T ケーブル(クロス)で接続するか、10BASE-T ケーブル(ストレート)で HUB のカスケードポートに接続してください。

memo カスケードポートをスイッチで設定するタイプの HUB と 10BASE-T ケーブル(ストレート)を接続する場合は、HUB のカスケードスイッチを MDI、UP-LINK、HUB 等に設定してください。



2 設定用コンピューターを有線 LAN に接続してください。

3 各機器の電源を ON にしてください。

WL AP-11mini の設定

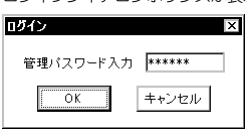
設定用コンピューターで、WL AP-11mini の設定を行います。

1 [スタート]-[プログラム(P)]-[AP-11mini]-[AP-11mini Utility]を選択してください。

メインウィンドウが表示され、自動的に WL AP-11mini がリストアップされます。

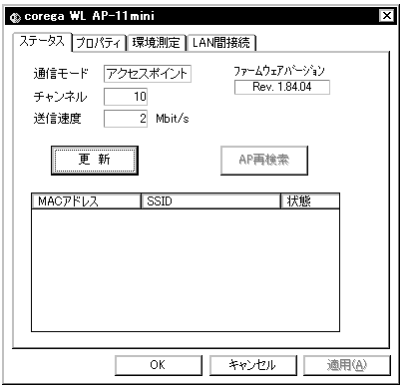
2 メインウィンドウから設定 をクリックするか、メニューから[編集(E)]-[設定(C)]を選択してください。

ログインダイアログボックスが表示されます。

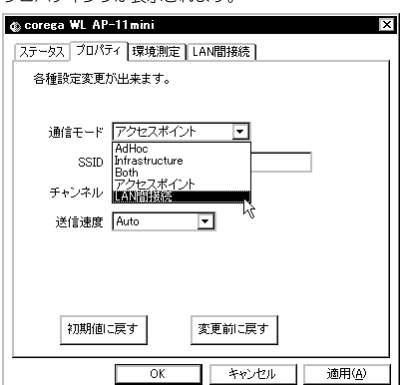


memo　工場出荷時に設定されている管理パスワードは、「corega」です。
セキュリティーの観点より、運用開始後は、速やかに変更することをお勧めします。(「4-1 管理パスワードの変更」☞ p.60)

3 パスワードを入力し、[OK] をクリックしてください。
設定ダイアログボックスが表示されます。



4 [プロパティ] をクリックしてください。
プロパティタブが表示されます。



①通信モード

「LAN 間接続」を選択してください。

memo　工場出荷時はアクセスポイントに設定されていますので、変更してください。

②SSID

任意の文字列を入力してください。

対向で使用するもう 1 台の WL AP-11mini と同じ SSID を設定してください。

注意!!　同じ SSID が設定されている他のアクセスポイントが、無線通信可能な範囲に存在する場合は、混信により通信障害が発生することがあります。

memo　工場出荷時の SSID は、「corega WL PCC-11」に設定されています。
近くに他のアクセスポイントが存在しない場合は、変更する必要はありません。

memo　SSID には、32 文字以内の半角英数文字および記号を使用できます。
使用できる記号は、次のとおりです。
!"#$%&'()*+,-./:;<=>?@[¥]^_{|}~

③チャンネル

1～13 から任意のチャンネルを選択してください。

注意!!　電波の届く範囲に、他のアクセスポイントが存在する場合は、混信の恐れがあります。
5 チャンネル以上ずれたチャンネルを設定してください。

memo　チャンネルによって通信に使用する電波の周波数が異なります。

memo　工場出荷時のチャンネルは、「10」に設定されています。
近くに他のアクセスポイントが存在しない場合は、変更する必要はありません。

④通信速度

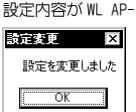
無線 LAN で使用する通信速度を選択できます。

通常は、変更する必要はありません。

memo　工場出荷時の通信速度は、「Auto」に設定されています。

5　適用(A) をクリックしてください。

設定内容が WL AP-11mini に保存され、確認のメッセージが表示されます。



6　OK をクリックしてください。

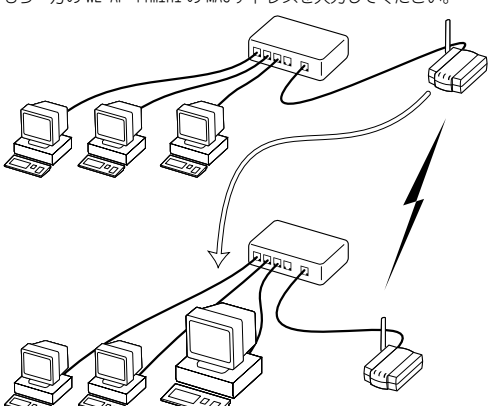
設定ダイアログボックスが表示されます。

7 LAN 間接続 をクリックしてください。

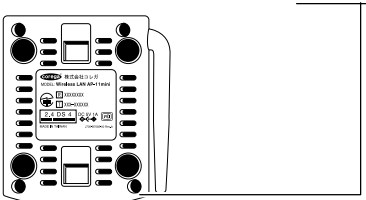
LAN 間接続タブが表示されます。

①接続先 MAC アドレス

もう一方の WL AP-11mini の MAC アドレスを入力してください。



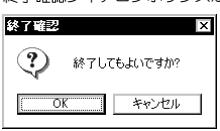
memo MAC アドレスは、WL AP-11mini 裏面の MAC アドレスシールに記載されています。



memo WL AP-11mini に設定されている MAC アドレスは、「00:90:99:81」もしくは「00:90:99:82」で始まる 12 桁の数字です。
本書では次に示す MAC アドレスを例として使用しています。
「00:09:99:81:23:45」および「00:90:99:81:23:46」
実際に設定を行う場合は、購入された機器に実際につけられている MAC アドレスに読み替えてください。

memo MAC アドレスについての詳細は、「付録 C MAC アドレスについて」(☞ p.76) を参照してください。

8 メニューから[ファイル(F)]-[終了(X)]を選択してください。
終了確認ダイアログボックスが表示されます。



9 OK をクリックしてください。
ユーティリティーが終了します。

10 もう一方の WL AP-11mini も同様の手順で設定を行ってください。

動作確認

コンピューターから、もう一方の有線 LAN に接続されているプリンターに印刷したり、ファイルサーバーを参照するなどして、通信が行えていることを確認してください。

また、ユーティリティーから相手側 WL AP-11mini との接続状況を参照することができます。

1 [スタート]-[プログラム(P)]-[AP-11mini]-[AP-11mini Utility]を選択してください。

メインウィンドウが表示されます。

2 メインウィンドウから設定 をクリックするか、メニューから[編集(E)]-[設定(C)]を選択してください。

ログインダイアログボックスが表示されます。

3 パスワードを入力し、 OK をクリックしてください。

設定ダイアログボックスが表示され、WL AP-11mini にもう一方の WL AP-11mini が表示されます。

運用の開始

以上で、WL AP-11mini を使用して LAN 間接続を行う場合の設定が完了しました。

そのままネットワークを使用してください。

4 その他の機能

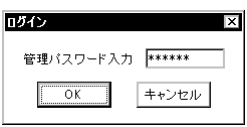
4-1 管理パスワードの変更

有線 LAN 側からの WL AP-11mini に対する不正なアクセスを防ぐために、管理パスワード機能が搭載されています。

注意!! アクセスポイントモード、および LAN 間接続モードに設定している場合のみ、管理パスワードが有効です。
それ以外のモードで、管理パスワードは使用できません。

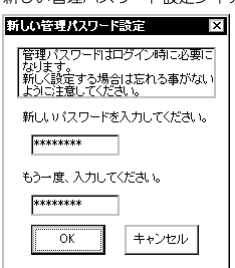
memo 工場出荷時に設定されている管理パスワードは、「corega」です。
セキュリティーの観点より、運用開始後は、速やかに変更されることをお勧めします。(「4-1 管理パスワードの変更」☞ p.60)

1 ユーティリティーのメインウィンドウから、管理パスワード をクリックするか、メニューから[編集(E)]-[管理パスワード変更(P)]を選択してください。
ログインダイアログボックスが表示されます。



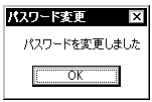
memo 工場出荷時に設定されている管理パスワードは、「corega」です。

2 パスワードを入力し、[OK] をクリックしてください。
新しい管理パスワード設定ダイアログボックスが表示されます。



3 新しく設定したい管理パスワードを 2 回入力し、OK をクリックしてください。

管理パスワードが変更され、確認のメッセージが表示されます。



memo パスワードが判らなくなった場合は、「4-6 初期化」(☞ p.69)を行ってください。
WL AP-11mini の全設定が工場出荷時の状態に戻ります。
これによりパスワードも工場出荷時の設定に戻ります。

4-2 ファームウェアのアップデート

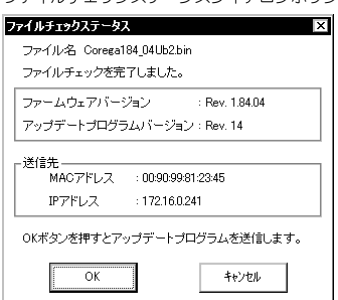
WL AP-11mini は、ファームウェアを最新のものに書き換えることにより、最新の機能を使用することができます。

memo　ファームウエアの入手方法についての詳細は、「付録 G 最新ファームウェアの入手方法」(☞ p.83)を参照してください。

1 ユーティリティーのメインウィンドウから、アップデート をクリックするか、メニューから[ファイル(F)]-[アップデート(U)]を選択してください。
ファームウェアアップデートファイル選択ダイアログボックスが表示されます。

memo　アクセスポイントモードおよび、LAN 間接続モードで使用している場合は、ログイン操作が必要です。

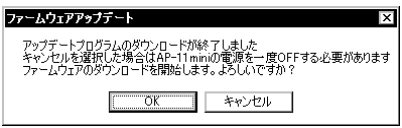
2 ファームウェアを選択し 開く(O) をクリックしてください。
ファイルチェックステータスダイアログボックスが表示されます。



アップデートしようとしているファームウェアのバージョンや、送信先がアップデート対象の WL AP-11mini になっているかを確認してください。

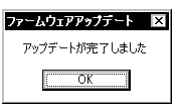
3 OK をクリックしてください。

確認のメッセージが表示されます。



4 OK をクリックしてください。

ファームウェアの転送が完了すると完了を示すダイアログボックスが表示されます。



5 OK をクリックしてください。

メインウィンドウに戻ります。

4-3 ステータス

WL AP-11mini のモードやチャンネルなどのステータスと、接続しているステーションもしくはアクセスポイントのリストを参照することができます。

1 ユーティリティーのメインウィンドウから、設定 をクリックするか、メニューから[編集(E)]-[設定(C)]を選択してください。

設定ダイアログボックスのステータスタブが表示されます。

①通信モード

通信モードが表示されます。

②チャンネル

チャンネルが表示されます。

③送信速度

送信速度が表示されます。

④ファームウェアバージョン

ファームウェアのバージョンが表示されます。

⑤ 更新

最新のステータスが取得されて表示されます。

⑥ AP 再検索

接続しているアクセスポイントの最新の一覧が WL AP-11mini より取得されます。
Infrastructure モード時のみ有効な機能です。

⑦ステーションリスト
接続しているアクセスポイント、もしくは接続しているステーションの一覧が表示されます。

2 OK をクリックしてください。
メインウィンドウに戻ります。

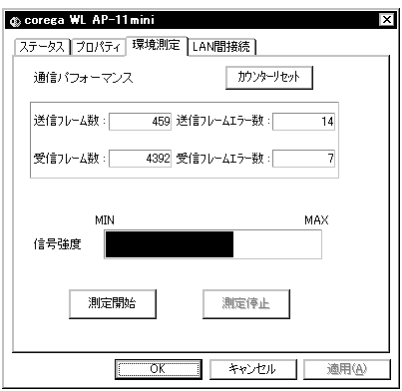
4-4 環境設定

次の情報を参照できます。

・送受信フレーム数
・エラーフレーム数
・信号強度

1 ユーティリティーのメインウィンドウから、設定 をクリックするか、メニューから[編集(E)]-[設定(C)]を選択してください。
設定ダイアログボックスが表示されます。

2 環境測定 をクリックしてください。
環境設定タブが表示されます。



①通信パフォーマンス
送受信フレーム数、および送受信フレームエラー数の累積値が表示されます。

② カウンターリセット
通信パフォーマンスに表示される値を、リセットし、新たに計測が開始されます。

③信号強度
受信時の電波信号の強度がバーグラフで表示されます。

④ 測定開始
クリックすると、信号強度のバーグラフが1秒毎に更新されます。

⑤ 測定停止

信号強度のバーグラフの更新が停止されます。

3 OK をクリックしてください。

メインウィンドウに戻ります。

4-5 検索

WL AP-11mini を手動でリストアップしたい場合に使用します。

1 ユーティリティーのメインウィンドウから、検索をクリックするか、メニューから[編集(E)]-[検索(F)]を選択してください。

WL AP-11mini が検索され、メインウィンドウにリストアップされます。

memo　ユーティリティーを起動してから WL AP-11mini の電源を ON にした場合などに有効な機能です。

4-6 初期化

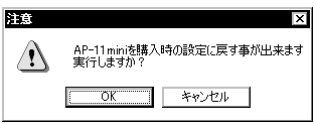
WL AP-11mini を工場出荷時の設定に戻したい場合に使用します。

注意!! 必ず WL AP-11mini とコンピューターを 1 対 1 になるように接続してから初期化を行ってください。

注意!! WL AP-11mini の全設定が工場出荷時の状態に戻ります。あらかじめ、必要な設定情報をメモなどに控えておくことをお勧めします。

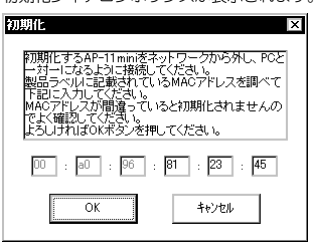
1 メニューから[ファイル(F)]-[初期化(R)]を選択してください。

注意を促すダイアログボックスが表示されます。



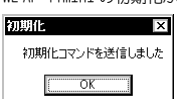
2 OK をクリックしてください。

初期化ダイアログボックスが表示されます。



3 WL AP-11mini 裏面の MAC アドレスラベルを参照し、MAC アドレスを入力し、OK をクリックしてください。

WL AP-11mini の初期化が実行され、初期化を行った旨のメッセージが表示されます。



4 OK をクリックしてください。

4-7 バージョン情報

ユーティリティーのバージョンを参照できます。

1 ユーティリティーのメインウィンドウから、バージョン をクリックするか、メニューから[ヘルプ(H)]-[バージョン情報(A)]を選択してください。
バージョン情報ダイアログボックスが表示されます。

2 OK をクリックしてください。
メインウィンドウに戻ります。

5 トラブルシューティング

ここでは、本製品使用中のトラブルの代表的な例と、その対処方法について説明します。
主な現象ごとに、その原因と対応方法を説明しています。

5-1 通信ができない

■ 有線側のコンピューターと通信できない

memo 注意を促すダイアログボックスが表示されます。

＊ POWER LED が点灯していない
本製品の電源を確認してください。
AC アダプターが本製品とコンセントに正しく接続されていることを確認してください。

＊ 接続先機器（PC、HUB、等）の LINK LED が点灯しない
・接続先の機器(PC、HUB、等)の電源が ON になっていることを確認してください。
・UTP ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。

memo コンピューターとの接続にはストレートケーブルをご使用ください。
また、ハブとの接続にはクロスケーブルを使用してください。

・接続先の通信速度の設定は正しいか確認してください。

＊ 有線側コンピューターに LAN アダプターのドライバーが正しくインストールされていない
LAN アダプターのユーザーマニュアルを参照して、ドライバーをインストールし直してください。

＊ IE4.01 がインストールされていない
IE4.01 以上を入手し、インストールしてください。

■ LAN 間接続ができない

＊ 接続先の MAC アドレスを正しく設定していない
接続先の MAC アドレスを再確認し、ユーティリティーで正しく設定してください。

■ ユーティリティーソフトウエアが正常に動作しない

＊ TCP/IP プロトコルがインストールされていない。または設定が正しくない
「2-2 コンピューター側の準備」(☞ p.21)を参照し、TCP/IP の設定を確認してください。

＊ AP-11mini とコンピューターを直接接続していない
または、有線のネットワーク経由で接続していない
AP-11mini とコンピューターを直接接続するか、または有線のネットワーク経由で接続してください。

＊ AP-11mini の IP アドレスの設定が正しくない。
設定ユーティリティーで IP アドレスのネットワークアドレス部とサブネットマスクを接続しているコンピューターと一致させてください。

5-2 無線 LAN カードをつけたコンピューターと接続できない

■ 無線 LAN カードのドライバーが正しくインストールされていない。

＊ 無線 LAN カードに付属のマニュアルを参照し、正しくインストールしてください。

■ 電波状態が悪い

＊ 本製品を取りつけたコンピューター間の距離を短くしたり、障害物をなくして見通しを良くしてから、再度通信してください。

■ 無線 LAN カードとアクセスポイントの設定があっていない。

＊ 通信モードの設定を合わせてください。

＊ 「SSID」の設定があっていない。
SSID に同じ文字列を設定してください。

＊ 通信相手が「暗号」設定している。
「暗号」設定を解除してください。

5-3 「ネットワークコンピュータ」に他のコンピューターが表示されない

■ ネットワークの設定が正しくない

＊ 必要なプロトコルがインストールされているか、コンピューターの識別情報が正しく設定されているか、共有設定が正しくなされているかを確認し、正しく設定しなおします。無線 LAN カードを取りつけたコンピューターのネットワーク設定については、無線 LAN カードに付属のマニュアルを参照してください。

5-4 正常に動作しない

■ ご使用のコンピューターのパワーマネジメント機能、サスペンド機能が動作している。

＊ パワーマネージメント機能、サスペンドレジューム機能の設定を OFF（無効）にしてください。（詳細については、コンピューターのマニュアルを参考にしてください。）

5-5 その他

■ 無線 LAN 通信ができなくなった

＊ 本製品の近くに、SSID とチャンネル設定が同じアクセスポイントが存在するため、無線 LAN カードがアクセスポイントを検出できなくなったり、通信することができない。
ネットワーク管理者に確認し、どちらかのアクセスポイントのチャンネル設定を変更してください。

■ IP アドレスの設定方法がわからない

＊ 「2-2 コンピューター側の準備」(☞ p.21)を参照し、正しく IP アドレスを設定してください。

■ 管理パスワードを忘れてしまった

＊ メニューから[ファイル(F)]-[初期化(R)]を選択することにより、すべての設定を初期化することができます。管理パスワード以外の設定も初期化されますのでご注意ください。

■ 管理パスワードを変更したい

＊ 通信モードをアクセスポイントモードまたは LAN 間接続モードにして変更してください。

■ 本製品の使用環境について

＊ 本製品は、電波を使用して通信を行っていますが、ご使用の環境によっては、「通信できない」、「通信速度が遅い」などの問題が発生することが考えられます。下記の表を参考にして使用環境を調査し、環境に問題がある場合には、本製品の設置場所を変更する、仕切りを取り払う、無線 LAN 製品間の距離を短くするなどの対策を講じてください。

	物質の種類	使用環境例
電波を通す物質	木材 ガラス	木の仕切り、ドア 木造 2 階建ての 1 階と 2 階 ガラス窓、ドア
電波を通さない物質	石、レンガ セメント/コンクリート 鉄	石の壁、レンガの壁 セメント/コンクリートの壁や床 鉄の仕切り、ドア 鉄筋 2 階建ての 1 階と 2 階 防火ガラス(針金入りガラス)

A 製品仕様

無線部	
規格	国際規格　IEEE 802.11、802.11b 国内規格　RCR STD-33 ARIB STD-T66
周波数帯域	2.4GHz
変復調方式	DS-SS 方式
情報変換方式	CCK、DQPSK、DBPSK
アクセス制御方式	CSMA/CA
データ転送速度	11/5.5/2/1Mbps 自動切り替え
サービスエリア	屋外 150m、屋内 60m (11Mbps 通信時は、屋外 60m、屋内 30m)
空中線電力	3mW/MHz
アンテナ形式	誘導体アンテナとスリーブアンテナ
アンテナダイバーシティー	空間ダイバーシティー
有線部	
サポート規格	IEEE802.3
インタフェース	10BASE-T(MDI-X)
対応プロトコル	TCP/IP、IPX/SPX、NetBEUI
データ伝送速度	10Mbps
アクセス方式	CSMA/CD
電源部	
入力電圧	AC100V (AC アダプターによる、外部電源型)
最大消費電力	3W
消費電流	送信時 450mA/受信時 450mA
平均発熱量	2.24kcal/h

環境条件	
保管時温度	-10～60℃
保管時湿度	80%以下(ただし結露なきこと)
動作時温度	-20～60℃
動作時湿度	80%以下(ただし結露なきこと)
外形寸法	
	58(W)×82(D)×22(H) (突起部含まず)
重量	
	本体 約 110g
取得承認	
EMI 規格	VCCI クラス B
	JATE D00-1220JP

B 工場出荷時の設定

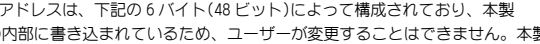
WL AP-11mini は、工場出荷時に以下の設定となっています。

管理パスワード	corega
IP アドレス	192.168.0.230
サブネットマスク	255.255.255.0
通信モード	アクセスポイント
SSID	corega WL PCC-11
チャンネル	10
通信速度	Auto

C MAC アドレスについて

Ethernet に接続される機器は、MAC アドレスと呼ばれるアドレスを使って通信を行います。MAC アドレスは機器(アダプター)のひとつひとつに割り当てられた唯一無二の(unique、ユニークな)アドレスです。

MAC アドレスは、下記の 6 バイト(48 ビット)によって構成されており、本製品の内部に書き込まれているため、ユーザーが変更することはできません。本製品の MAC アドレスは、製品に貼付されている MAC アドレスラベルに記入されています(表記は全て 16 進数)。



- ベンダーID
  LAN ベンダー(LAN 用機器を製造しているメーカー)が IEEE に申請することにより得られる識別番号です。
- 通し番号
  この番号は、当社が製品を識別するために割り当てたもので、本製品は、「81」または「82」から始まる 6 桁の数値となっています。
  この通し番号と本製品の「シリアル番号ラベル」の番号に関連はありません。

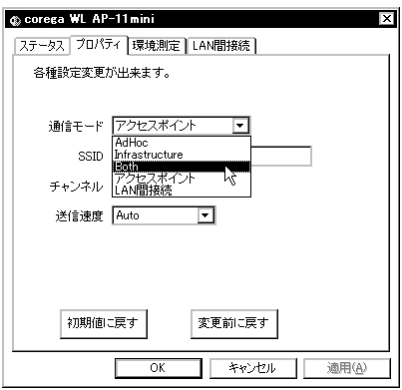
memo MAC アドレス（マックアドレスと読みます）は、物理アドレス、ネットワークアドレス、イーサネットアドレスなどと呼ばれることもあります。
また、MAC アドレスは、TCP/IP の環境で使用される IP アドレスに関係がありますが、これらは別々のものです。

D Both モードについて

WL AP-11mini は、特殊な動作モードとして Both モードを持っています。
Both モードに設定した場合、WL AP-11mini は起動時に以下のように動作します。

・通信可能なアクセスポイントが存在するか確認する。
　├ アクセスポイントが存在した場合：Infrastructure モードとして動作します。
　└ アクセスポイントが存在しない場合：AdHoc モードとして動作します。

memo Both モードを使用するには、設定ダイアログボックスのプロパティータブにおいて、通信モードに Both を選択してください。



Both モード時の設定値の詳細は、「3-2 ステーション側で使う」(☞ p.40)および「3-3 無線 LAN のみで使う」(☞ p.46)を参照してください。

E 用語集

●AdHoc

「AdHoc」モードは無線 LAN ネットワーク構成の 1 つで、無線 LAN カードを取り付けたコンピューター同士でネットワークを構成する場合に使用します。
コンピューター同士は、ピアツーピアで接続され、お互いのリソースを共有することができます。

●Infrastructure

「Infrastructure」モードは無線 LAN ネットワーク構成の 1 つで、アクセスポイントを使用し、有線ネットワークと無線ネットワークを統合して 1 つのネットワークとして構成する場合に使用します。

●Microsoft ネットワーククライアント

Windows98/95 などのサーバーサービスを利用するためのクライアントソフトウェアです。
通常、プロトコルには、「NetBEUI」が使用されます。

●NetBEUI プロトコル

小中規模のネットワークトランスポートプロトコルです。
NetBEUI は、OSI 参照モデルのトランスポート層およびネットワーク層プロトコルに相当します。
これを、NetBIOS と統合することにより、ワークグループ LAN 環境で効率的な通信システムが実現されます。
Windows98/95 でサポートされています。

●SSID

「SSID」(Service Set IDentifier)は無線 LAN ネットワークを構成するコンピューター同士を識別する名前です。
同じネットワークに属するコンピューターまたはアクセスポイントは、同じ SSID を設定しなければなりません。
「SSID」は、半角英数文字 32 文字以内(大文字、小文字も区別される)で設定します。
(「SSID」の設定は、「AdHoc」モードの場合は無効です。)

●TCP/IP プロトコル

インターネットで使用されているプロトコルで、OSI 参照モデルのトランスポート層およびネットワーク層プロトコルに相当します。
TCP/IP プロトコルを使用すると、異なるプラットフォームのコンピューター同士でも通信することができます。

●アクセスポイント

無線 LAN から有線 LAN のネットワーク上のコンピューターに通信するための装置です。
本書に記載されている、「製品保証規定」を必ずお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

●送信速度

送信速度は、無線 LAN ネットワークを構成するコンピューターが対応している速度から選択することができます。
帯域を有効に利用し、最適な速度で通信を実行するには、「Auto(送信速度自動設定)」に設定しておきます。
「Auto」に設定すると、送信速度はネットワークを構成するコンピューターに合わせて自動的に調整され、最適な速度で通信できるようになります。

●チャンネル

無線 LAN 通信で使用される、IEEE802.11 のデフォルトのチャンネルを設定します。

●ピアツーピア接続

コンピューター同士が、1 対 1 で対等に行う通信です。
サーバーとクライアントのように機能を分化せず、お互いの機能を利用して通信を行い、ファイルやプリンターなどの資源を共有することができます。

●無線 LAN

配線を必要としない LAN(Local Area Network)のことです。
1 つの建物内や敷地内など、比較的狭い範囲で、電波や赤外線、レーザーを使用してネットワークを構築します。

F 保証と修理について

保証について

本書に記載されている、「製品保証規定」を必ずお読みになり、本製品を正しくご使用ください。
無条件で製品を保証するということではありません。
正しい使用法で使用した場合のみ、保証の対象となります。
また、物理的な破損等が見受けられる場合は、保証の対象外となりますので予めご了承ください。
詳しくは、本書に記載されている「製品保証規定」をお読みください。

また、本製品（ユーティリティーディスクは除く）の保証期間については、保証書に記載されている保証期間をご覧ください。

修理について

故障と思われる現象が発生した場合は、まず取扱説明書を参照して、設定や接続が正しく行われているかを確認してください。
現象が改善されない場合は、巻末の「調査依頼書」をコピーしたものに必要事項をご記入の上、保証書を添付し、弊社サポートセンター宛に製品をお送りください。

memo 申し訳ありませんが、直接来社されてのサポート依頼は、受け付けておりませんので、製品は必ず宅配便などでお送りください。

製品を送られる場合は、次の点にご注意ください。

- 弊社サポートセンターへ製品を送られる場合の送料につきましては、送り主様のご負担とさせていただきます。
  なお輸送中の事故に関しては、弊社はいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 宅配便など、送付の控えが残る方法でお送りください。（普通郵便による送付は、固くお断りいたします。）
- 修理期間は、製品到着後 10 日程度（弊社営業日数）を予定しております。
- 製品送付先

  〒 222-0033 横浜市港北区新横浜 1-19-20

  (株)コレガ corega サポートセンター宛

G ユーザーサポートについて

障害回避などのユーザーサポートは、巻末の「調査依頼書」をコピーしたものに必要事項をご記入の上、下記の番号まで FAX してください。
できるだけ電話による直接の問い合わせは避けてください。
FAX によって詳細な情報を送付していただくほうが、電話による問い合わせよりも遥かに早く問題を解決することができます。
記入内容の詳細は、「調査依頼書のご記入のお願い」をご覧ください。

Tel:　045-476-6268
　　月～金（祝・祭日を除く）
　　10：00～12：00、13：00～17：00

Fax:　045-476-6294

なお、電子メールによるサポートは行っておりませんので、ご了承ください。

corega Net-News の購読について

■ corega のホームページにアクセスしてください！

http.//www.corega.co.jp/

corega ホームページにアクセスすれば、商品の詳細やＰＣ動作検証リストはもちろん、ＦＡＱなどコレガに関するすべての情報が入手できます。
ダイレクトショッピングからドライバーのダウンロードまで、便利なサービスも満載で、何でもおまかせのホームページです。

■ corega Net-News を購読しませんか？

corega Net-News は、コレガ社がお届けするメール配信サービスです。
新製品情報やキャンペーン、プレゼント情報など、耳よりなニュースをお届けします。
ホームページのアップデート情報もお知らせしますので大変便利です。

corega ホームページから、どなたにもご登録いただけますので、是非、ご利用ください。

調査依頼書のご記入のお願い

調査依頼書は、お客様のご使用環境で発生した様々な障害の原因を突き止めるためにご記入いただくものです。
障害を解決するためにも以下の点にそって、十分な情報をお知らせください。
記入用紙で書き切れない場合には、別途プリントアウトなどを添付してください。

■ ハードウェアとソフトウェア

* 本体裏面に貼られたラベルに記入されている下記のシリアル番号(S/N)、製品リビジョンコード(Rev)を調査依頼書に記入してください。

（例）

* ご使用になっているソフトウェアの種類／バージョン（Ver.）／シリアル番号を記入してください。
それらは、ユーティリティーディスクのラベル上に記入されています。

* 他社のインターフェースボードやユーティリティーをご使用の場合は全てご記入ください。

■ お問い合わせ内容について

* どのような症状が発生するのか、それはどのような状況で発生するのかを出来る限り具体的に（再現できるように）記入してください。

* エラーメッセージやエラーコードが表示される場合には、表示されるメッセージの内容のプリントアウトしたものなどを添付してください。

* 障害などが発生する場合には、本アダプターと併用されているユーティリティーや、アプリケーションの処理内容もご記入ください。

■ ネットワーク構成について

* ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図を添付してください。

* 他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをご記入ください。

最新ファームウェアの入手方法

当社は、改良などのために予告なく、本製品のファームウェアのバージョンアップやバッチレベルアップを行うことがあります。最新のファームウェアは、コレガのホームページから入手することができます。

■ ホームページからの入手

① Internet Explorer、Netscape Navigator などの WEB ブラウザーを使用して、コレガのホームページ「http://www.corega.co.jp/」にアクセスしてください。

②「サポート」をクリックしてください。

③最新版のファームウェアはここで紹介されますので、項目を選択して、ダウンロードしてください。

H おことわり

- 本書は、株式会社コレガが作成したもので、全ての権利を弊社が保有しています。弊社に無断で本書の一部または全部をコピーすることを禁じます。
- 予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがありますがご了承ください。
- 改良のため製品の仕様を予告なく変更することがありますがご了承ください。
- 本装置の内容またはその仕様により発生した損害については、いかなる責任も負いかねますのでご了承ください。

©2001 株式会社コレガ

corega は、株式会社コレガの登録商標です。

Windows、WindowsNT は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標です。

その他、この文書に記載しているソフトウェアおよび周辺機器の名称は各メーカーの商標または登録商標です。

2001 年 07 月　　Rev.A　初版

メモ

本製品の初期設定および、変更後の設定を記録しておきましょう。

基本設定		初期設定	変更後の設定
SSID		corega WL PCC-11	
チャンネル		チャンネル10	
IP設定	IPアドレス	192.168.0.230	
	サブネットマスク	255.255.255.0	
	ブロードキャスト	192.168.0.250	

ご自由にお使いください。

調査依頼書（corega Wireless LAN AP-11mini 1/2）

年 月 日

一般事項

1．会社名(個人名):　　フリガナ:
部署名:　　ご担当者:
ご連絡先住所 〒

TEL:(　　)　　FAX:(　　)

2．購入先:　　購入年月日:
購入先担当者:　　購入先 TEL:(　　)

ハードウェアとソフトウェア

1．ご使用のカードのシリアル番号、製品リビジョン

製品名：corega Wireless LAN AP-11mini　S/N＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ Rev ＿＿

ファームウェアのバージョン：Ver.＿＿＿＿ pl.＿＿＿＿

2．ご使用のコンピュータ機種と併用している他メーカーの拡張アダプター(ボード)
コンピュータのメーカー名／機種
OSとバージョン
拡張アダプターのメーカー名／機種

3．ご使用のサーバー機種(UNIX、NetWare、Windows NT など)
コンピュータのメーカー名／機種
OSとバージョン

お問い合わせ内容

□別紙あり　　□別紙なし

□設置中に起こっている障害　　□設置後運用中に起こっている障害

調査依頼書 (corega Wireless LAN AP-11mini 2/2)

年 月 日

ネットワーク構成

□別紙あり　　□別紙なし

簡単なもので結構ですからご記入をお願いします.

製品保証規定

■この製品保証規定は、製品保証書に明記した期間内において、取り扱い説明書などにしたがった正常な使用をしていたにもかかわらず故障が発生した場合に、無償修理をお約束するものです。

- ハードウェア本体：製品保証書に記載の保証期間で無償保証とします。（ただし、本規定の他の条項に準じます。）
- 電源アダプター／電源ケーブル：1年保証
- 本体付属品（ディスク）：3ヶ月保証

■保証期間内の無償修理は、故障製品を弊社までお送りいただき、修理完了品または代替品をお客様に返送することとします。表面の製品保証書に記載された「製品保証に関するお問い合わせ先」まで故障製品を送付してください。送料はそれぞれ送付元負担とさせていただきます。

■保証期間内であっても次の項目に該当する場合は、無償修理の適用外とさせていただきます。（ただし、無償修理の適用外であっても有料での修理または代替品への交換・サービスはご利用いただけます。）

1. 使用上の誤り、または不当な修理や改造によって生じた故障および損傷
2. お買い上げ後の輸送、移動、落下などによって生じた故障および損傷
3. 火災、地震、水害、落雷、その他の天変地異、公害、塩害、異常電圧などの外部要因によって生じた故障および損傷
4. 接続された他の機器が原因で生じた故障および損傷
5. 車両、船舶などに搭載されたことによって生じた故障および損傷
6. 消耗品の交換（バックアップ電池など）
7. 製品保証書の提示がない場合
8. 製品保証書の所定事項に記入がない場合、または字句を不当に書き換えられた場合
9. 本製品のファームウェアのアップデートを弊社に依頼された場合

■修理によって交換された代替品、不良部品の所有権は弊社に帰属するものとします。

■製品保証規定は、本製品についてのみ無償修理をお約束するもので、本製品の故障または使用によるその他の損害については、弊社はその責を一切負わないものとします。

■製品保証書は、日本国内のみで有効です。

■製品保証書は再発行いたしませんので紛失しないように大切に保管してください。

製品保証書（1年保証）

この製品保証書は、株式会社コレガが定める製品保証規定（裏面）に基づき、製品の無償修理をお約束するものです。

製 品 名　corega Wireless LAN AP-11 mini

シリアル番号
（S／N）

ご購入日

製品保証に関するお問い合わせ先

corega サポートセンター

TEL ：045-476-6268　FAX ：045-476-6294

〒222-0033横浜市港北区新横浜1-19-20

受け付け時間： 10:00～12:00／13:00～17:00

月～金（祝・祭日を除く）

販売店様印

※ 本保証書にお買い上げ販売店の記名及び押印がない場合は、有償扱いとなりますので予めご了承ください。

※ 製品名、シリアル番号、ご購入日をご記入ください。